

NakaNishi ESD JOURNAL

Creation
Quest
Friendship



2023年 10月27日 発行 第5号
長野県中野西高等学校 ユネスコ委員会

ESDとは？

Education for Sustainable Development／持続可能な開発のための教育

ESDは地球規模の課題を自分のこととして捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

ユネスコ特別授業と満蒙開拓慰霊祭

1学期末に2・3年生が50分、1年生も LHR の一部を使いユネスコ特別授業が行われました。その目標は、、、

「今につながる過去」を学び、「今からつなげる未来」を創る

ことです。

満蒙開拓団が中国に渡った背景……2年3年はユネスコ特別授業でいろいろな観点から学びました。

貿易

輸入超過のなか、「製糸」によるシルク（絹）輸出が日本経済の支え

世界恐慌

蚕繭価格の暴落 日本（特に製糸業が盛んだった信州）は経済的困窮

借金

一戸当たり 970 円を抱え、**子供の人身売買**も。

宣伝と情報操作

政府は宣伝映画を作り、国策として満州移民を補助金とノルマで募った。

長野県が最多

全国最多の3万7千人が満州へ。📌 **長野県が教育県と呼ばれたこととも関係**

集団自決

ソ連の参戦。逃避行の中、飢えや病気、集団自決で多くの人が亡くなる。



慰霊塔に向けて手を合わせる滝沢さん(右手前)

旧満州 500人以上犠牲 「高社郷開拓団」 中野で慰霊法要

現在の中野市や下郷町から旧満州(中国東北部)に渡り、敗戦直後に500人以上が「高社郷開拓団」の慰霊法要が25日、同市東山公園の慰霊塔前で開かれた。新型コロナウイルス下では自主参拝にして、4年ぶりに式典を実施。元団員や遺族、地元関係者、中野西高校(中野市)の生徒ら約50人が参列し、犠牲者の鎮魂を祈った。中野市高井地区などの有志でつくる実行委員会主催。読経や焼香の後、全員で満州の方角に向かって「故郷」を斉唱し、黙とうした。集団自決で弟と妹を失った元団員の滝沢博義さん(89)「長野市に生きている人は私の知る限り3人。遺族会もない。慰霊塔の存在を(次世代に)知ってもらい、戦争のない平和が永遠に続くことを願いたい」とあいさつした。

国に従った末の集団自決あつていいものか

世界恐慌の影響を受け、**【貧乏に依存した農家経営が破綻】**。困窮した農村において、土地を求めた農家と、政府の領土的野心とが結びついた当時の日本は、**【国策として満州開拓移民】**を行った。移民数は長野県が群を抜いて多い。中野市からも高社郷約720名が満州に渡った。しかし満州では1945年8月9日からのソ連軍の侵攻により、多くの犠牲者を出した。彼らを保護するはずの日本軍は、開拓団を見捨て、撤退した。残された開拓団の逃避行の中で、寒さや飢え、チフスなどで多くの死者をだした。長野県北部から満州に渡った高社郷満州開拓団は8月25日570名余の**集団自決も起きた**、一方で中国残留孤児という現在まで残る問題を生んだ。

！ 中野市では・・・

その犠牲者を偲び、戦禍を繰り返さないためにも、東山にある高社郷満州開拓団慰霊碑において、**毎年8月25日に遺族の慰霊祭**が行われてきた。遺族の数が減るなか、**この歴史を後世に伝えたい**という想いのもと、**中野西高校生も慰霊祭に参加**。四年ぶりの慰霊祭式典に中野西生徒3人も参加して「戦争でつらい思いをする人を出さないために私たち若者が動かなければならない」と鎮魂を祈った。

～生徒の感想～

・昔は今よりずっと自由がなくて、妥協をしないと生き残れなかったのだと感じた。」苦しい思い、つらい思いをしながらも命を繋いでくれた、多くの人々のおかげで今の私たちがいると分かった。自分の命も人の命も本当に大切なのだと強く実感したし、何事にも感謝して生きようと思った。3年

・学生は先生たちに戦争について話をしてもらえるが、大人になったら自分からテレビを見たり調べたりしないといけなくなる。多くの人が授業で聞いたこと・「思ったことを忘れずに大人になっても戦争について深く考えるようになれば良いと思う。3年

・追い込まれた人々は集団自決をした。何も知らないまま親に殺される子どもや、子どもを殺さないといけない親の気持ちを考えると何とも言えない気持ちになった。

・最初は「貧しかったから」など、経済的な理由だと思っていたが、本当にそれだけが理由だったのか。とても考えさせられました。授業を通してこの話を知って、私たちはそこから何を学んでいくのか。「今」を生きてる私達にはこの歴史・この記憶を次世代に伝えていく責任があると思った。

・情報を鵜呑みにしない、つらい時こそよく考えて行動することが大切だと思った。

・死んだ友達の服を剥いで生き延びる話を聞いて、改めて戦争は人の命をも奪ってしまうし、人間として大事なもののうしなってしまうと感じた。

・満州で集団自決が起こったことは知っていたが内容を聞いて胸が痛んだ。井戸の中に投げ込んだり、銃で殺したり、どこも死体で溢れているときいてとてもゾッとした。それも終戦後だとは知らなかった。戦争を経験した人が減っていく中で、戦争の重大さを知らない世代となっていく。そのため、自分たちの世代が、次の世代に戦争の愚かさを伝えていく、大切な役割があると感じた。



・正解である判断をすることはできないけれど、表面の言葉や見た目だけで判断せず、その事柄についてできる限り細かく考え、その上で判断していくように僕自身意識していきたい。

・満州の話は中学の時やったけど具体的な内容までは知らなかったので、日本人として知れてよかった。

・自分の家族を殺さざるを得なくなってしまったり、行った先で自分達の居場所がない現実はとても耐えられる環境ではなかったのではないかと感じた。故郷に帰るより、死んで日本国を守ろうという言葉がすごく切なかった。

・シベリヤ収容所の映画「ラーゲリより愛を込めて」を観て、当時の悲惨さを痛感していたが、今回さらに絶望した。当時の方々は希望すらほとんどない絶望の中で苦しい思いをされていて、今、普段感じることはない現在の幸せを感じている。僕たちがやらなければならないことは二度とこういったことを起こさないことで、それを当時の方々も望んでいると思う。

・長野県が戦争にあそこまで深く関わっていることも初めて知りましたし、小 3 のころ社会科見学でかいこ作り体験に行った覚えがありますが、かいこ戦争があんなにも関わっていることは初めて知りました。地元の方々が命を犠牲にしてまでも戦ったことも改めて詳しく知ることができました。世界では今でも戦争をしている地域があるのが現状です。その地域に対して自分が何かできることはないか、そんなことも考えさせられる授業でした。

・満州へ行かせるために作った映像とてもよくできていると思った。とても過酷な場所なのにうまくわからないようにしていた。世界恐慌で職を失い切羽詰まっていた満州をよく知らない人にとって、楽土といわれたら移住したいと思って冷静な判断ができないと思う。

・もともと自由教育を推進していた長野県が開戦にあたり変化してしまったことを悲しく思いました。どんな悲劇が起こったかだけでなく、なぜ起こってしまったのかという背景を正しく理解することが大切だと思います。

・自分も最適な選択ができるように、世界情勢や新しい情報を知っておくことが大切だと分かりました。

・当時の映像が「何としてでも日本の人々を満州に移したい」ということがわかるような映像だった。もしも自分が当時の人であつたら映像中のおかしな点や矛盾した点などに気づけず、満州に行っていたかもしれない。当時の人々も追い詰められていたのではないかと思います。

・政府は満州に行くことについてよいことだけを述べて悪いことは想像できない感じだったのに、実際は悪いことしかなくて、移民した人たちは苦しんでいたことを知り、心が痛みました。

・戦争にしか目を向けていなかったけれど、戦争後も苦労があつて、本当に大勢が巻き込まれてしまっていたことを実感しました。長野県が結構関わっていて驚きました。

・中学の歴史で満州については学んだが、自分が想像したよりもはるかに残虐で残酷なことが行われていて、今後二度と同じようなことがあってはいけないと強く思った。

・長野県からの移民の多さに「とても」驚いたし、自分でももっと調べてみたいと感じました。

・自決を強いられた人々のお陰で戦時中に起きた悲惨な出来事の一部を知ることができました。あなたたちのお陰で今の自分がいます。

・二度と戦争が起こりませんようにと願っていますがその願いはかないそうにありません。なぜなら、世界は第三次世界大戦に向かっているからです。中国の習近平主席は「2030 年までに台湾を取り戻す。武力行使も厭わない。」と言っているので台湾有事は確実に起こると思います。台湾有事が起きたら同盟と軍事基地の関係で日本とアメリカが巻き込まれ、N A T O + ウクライナ V S ロシアの第三次世界大戦が勃発するでしょう。